

2018年度 年主題

## 「イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で～」

2018年4月11日  
学校法人 敬愛学園  
元住吉こぼと幼稚園  
園長 保科 佐希子

主題 聖句 愛する者たち、  
神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、  
わたしたちも互いに愛し合うべきです。

(ヨハネの手紙Ⅰ 4章11節)

ご入園、ご進級おめでとうございます。

登園の前日はどんな気持ちで過ごされたのでしょうか？いよいよ明日は入園式、始業式！と子どもたちもそして保護者の皆さまもワクワク、ドキドキしながら過ごされたのではないかと思います。

園庭の草木も風に揺られ、まるで「もうすぐ子どもたちがやってくるんだよ」と楽しみにささやきあっているように思われます。

今まで大切に育てられてきて初めて大好きなおうちの方と離れて過ごす幼稚園の生活は、少し不安になるかもしれません。でも、あせらず初めてのことにゆっくり一つ一つ慣れていってほしいと思います。そして幼稚園の中で「大好き」をいっぱい見つけてもらいたいと思います。

大好きな絵本・大好きなすべり台・大好きな先生・大好きなおともだち・そして大好きな幼稚園。元住吉こぼと幼稚園の中で子どもたちの元気な声が響き渡りますように私たちも皆さまとお会いできるのを楽しみにしております。

神さまの大きな愛の中で安心して満たされて過ごすことができますよう、一人ひとりの笑顔が輝きますよう、職員一同祈りつつ皆さまをお迎えしたいと思います。

昨年度保育主題の「愛されて育つ」を心にとめて子どもたちとの時を紡いだ2017年度でした。

愛されて育つ、というのは信頼できる誰かのまなざしや目配せやうなずきに支えられ安心して、そして愛されていると実感し育っていくことです。

私たちのまなざしの中で子どもたちが安心して愛されていると感じることができる、反対に子どもたちのまなざしが私たちに向けられることで私たちもまた子どもたちから愛されていると感じるのです。

しかし、何より創造主なる神さまと救い主イエスさまが、私たちに確かなまなざしを注がれ、弱く足りないところだらけの私たちであっても「あなたを愛します」とおっしゃってくださることを思います。私たち大人も無条件に神さまに愛されているから故、またありのままの子どもたちを受け入れ愛していくことができるのです。

今年度はキリスト教に初めて出会う方にも、まだイエスさまを救い主として意識されていない方々にも、いずれ目には見えない神さまの働きを受け入れる時が来ると信じて、「イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で～」を年間の主題にしたいと思います。

神さまは、私たち人間が何かできるから、良いことをしたから愛してくださるのではありません。それがイエスさまの表してくださった神さまの御意思でした。愛するということは、その者に愛する価値がある時だけ愛するのではありません。

神さまの愛は無条件です。

イエスさまの時代は律法を守ることが大切でそれを厳密に守らないと神さまによって正しいと認められないと信じられてきました。しかし律法を守れるはずもない幼い子どもたちをイエスさまは祝福しひたすら愛してくださったのです。

イエスさまの愛に包まれて、安心して、笑って、泣いて、遊んで、生活して、祈って生きていきたいと思います。

先日の卒園を祝う会のことでした。いつも先生に包み込んでもらっていた男の子。それは抽象的な意味だけではなく、彼の気持ちが不安定になる度に、先生は彼を抱きしめて受け入れて包み込んでいたのです。最後のお祝いの席で、それぞれ子どもたちが先生にお礼の言葉を言う場面で、突然彼はいやいやと首を振り、涙で顔をくしゃくしゃにしたのです。先生とのお別れが悲しかったのでしょう。確かにそこには彼の先生への愛がありました。そして先生はいつもあふれる愛で彼を包み込んでいました。

愛するということは、信頼を意味します。愛されることで信頼が生まれます。愛されて育った子どもが、やがて大人になった時、自分を受け入れ、他者を尊重し、置かれた立場での責任を持ち、平和を作り出していけるのだ、と思います。

近年、家庭での子育ての在り方も変化しつつあります。子育ての中で親が不安や孤独を感じてしまう、その苦しみや経済的貧困に追い込まれ虐待や育児放棄を起こしてしまうニュースもよく耳にします。女性が社会進出するにつれ、仕事と子育ての両立に悩まされる、行政もその対策には後手後手になってしまっている現状があります。

子育てに関する情報量の多さ、早期教育や成果主義の教育の情報の中から何を調べばいいのか、悩まれる保護者の方も少なくないと思われます。

しかしながら、子育てはその一瞬一瞬が子どもの成長の時であります。子どもたちは私たちが忘れてきたしまった小さな感動やどこかにおいてきてしまった大切なもの、を私たちに思い出させてくれます。私たちもまた子どもたちから多くのことを教えてもらうのです。

子どもたちと寄り添いながら私たちもまた成長していく、親として育っていく、この時を一日一日大切に幸せに思いながら、祈りを込めて今年度もスタートしていきたいと思います。

神さまがともにそばにいて守って下さる安心を覚えて子どもたち一人ひとりを大切にお預かりし、イエスさまの愛の中で歩んでまいりたいと思います。

年間主題によって、元住吉こぼと幼稚園の「ねがい」を3つ設定しました。

- ① 一人ひとりを大切にする。
- ② ありのままを受け止めて関わる。
- ③ イエスさまの愛の中で安心して満たされる。

○\*○ ○\*○ ○\*○ ○\*○ ○\*○ ○\*○ ○\*○ ○\*○ ○\*○ ○\*○ ○\*○ ○\*○ ○\*○ ○\*○ ○\*○

2018年度4月より幼稚園教育要領が改訂されました。

今回改訂された指針や、教育要領の基底的概念

今までは：目に見える、分かりやすい能力の促進

↓（世界的な研究成果とデータの裏付けを基に）

これからは：子どもの気持ち（心情）・意欲等

実態を把握しがたい非認知的能力を重視する

※非認知的能力とは学びに向かう力

上記のことは今までキリスト教保育が大切に受け継いできた「見えないものに目を注ぐ」であります。心は命令しても動きません。良い子になりなさい、優しくなりなさい、と言っても指示や命令では子どもの心は育ちません。

子どもが主体的になって学習する方法が「遊び」です。

幼児期に遊び切って主体的な活動を行うことが重要である、と今回の教育要領で改めて示されました。これも今まで元住吉こぼと幼稚園が大切にしてきたことであります。こぼとの子どもたちはのびのびと遊んでいる、とよく言われますが、保育者は、ただのびのびと遊ばせるだけではなく、子どもたちがどうしたいのかを読み取って支えております。このことにより子どもたちが前向きに学び取っているとと言えます。

また今回の改定で、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿が示されました。

1. 健康な心と体
2. 自立心
3. 協同性
4. 道徳性・規範意識の芽生え
5. 社会生活とのかかわり
6. 思考力の芽生え
7. 自然との関わり・生命尊重
8. 数量や図形。標識や文字などへの関心・感覚
9. 言葉による伝え合い
10. 豊かな感性と表現

これらの10の姿は「幼児期の終わりまで」に完了すべき発達のチェック項目ではなく、小学校との連携における共通の継続課題であります。